

令和4年度第1回
東京都現代美術館美術資料収蔵委員会
評価部会

令和4年9月7日（水）

東京都現代美術館

午後 2 時00分開会

渡辺文化施設担当統括課長代理：時間になりましたので始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和 4 年度第 1 回東京都現代美術館美術資料収蔵委員会評価部会を開催いたします。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当統括課長代理をしております渡辺と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私の向かって左の席から御紹介させていただきます。

神山亮子委員でございます。

神山委員：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：児島やよい委員でございます。

児島委員：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：長門佐季委員でございます。

長門委員：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：平野到委員でございます。

平野委員：平野です。よろしくお願い致します。

渡辺文化施設担当統括課長代理：毛利義嗣委員でございます。

毛利委員：毛利です。よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：なお、石井孝之委員、佐谷周吾委員、千葉由美子委員につきましては、本日御欠席ということで御連絡をいただいております。

続きまして、事務局の職員を御紹介いたします。

東京都現代美術館副館長の茂木でございます。

茂木副館長：茂木でございます。よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：東京都現代美術館事業企画課長の丹羽でございます。

丹羽事業企画課長：よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：東京都現代美術館事業係長の岡村でございます。

岡村事業係長：岡村でございます。よろしくお願いいたします。

渡辺文化施設担当統括課長代理：どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速ですが、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、会議次第がございます。次に、資料 1 から 5 までの資料及び評価表がございますので、御確認ください。

次第がございまして、資料 1、東京都現代美術館美術資料収集方針、資料 2 と 3 がクリップで留めてございますけれども、資料 2 が、令和 4 年度東京都現代美術館収集候補作品

一覧表、資料3が、作家・作品説明書、あと別にA3の資料で「横尾忠則作品一覧」というものがございます。

次に資料4、東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱、あと資料5としまして、評価部会委員名簿、あと評価部会の評価表がお手元にあるかと思えます。

よろしいでしょうか。不足はありませんでしょうか。

それでは、配付いたしました資料につきましては、後ほど回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、評価対象資料の価格評価に対する議事は、東京都現代美術館美術資料収蔵委員会設置要綱、第11により非公開となります。

当部会の議事録については、同要綱第11第2項の定めに従い、美術資料収集決定の後、公開を予定しております。公開に当たって、委員の皆様個人情報など公開に差し障りのある内容がないか追って確認させていただきます。

それでは、議事に入ります。

まず、収集作品の説明をお願いいたします。

茂木副館長：収集作品について、御説明をいたします。

本日、評価をお願いいたします作品は、購入1点、寄贈29件です。

作品の詳細は、事業企画課長の丹羽、事業係長の岡村及び担当学芸員から御説明いたします。

丹羽事業企画課長：それでは、御説明に移らせていただきます。

まず、資料1の東京都現代美術館美術資料収集方針を御覧ください。

こちらのほうに、21世紀の美術文化を担う、そしてまた首都東京、国際都市東京の美術館としてふさわしい作品資料を収集するという方針を示しております。

1の収集の基本的な考え方は、主に5項目ございます。そして資料の2の収集対象及び分野のところは、各作品候補がどの分野に当てはまるのか、どの対象に当てはまるのかということをお示ししているものでございます。

まず、こちらの会議室のほうで、この後、資料2、3に沿いまして、各作品の概要を御説明させていただきます。その後、作品、会場を移しまして、作品実見をしていただきながら、作品の詳細を御説明するというようにさせていただきます。

では、事業企画係長岡村より作品の概要を御説明申し上げます。

岡村事業係長：こちらでは、私のほうから収集候補作品について、概略をお話しさせていただきます。

お手元の資料2、候補作品一覧表及び資料3、作家・作品説明書を併せて御覧ください。

1番は、横尾忠則の2021年の絵画《靈妙な得》でございます。こちらは2021年に当館で開催されました横尾忠則の大規模な回顧展、「GENKYO 横尾忠則」展のために制作された絵画で、個展開催時点での最新作として、展覧会場の最後に展示された作品です。横尾忠

則につきましては、二度にわたり個展を開催するなど、当館とは非常に関わりの深い作家として、既に26作品及び二次資料等34点、計60点を収蔵しております。

最初の大規模な個展を開催した2002年以降も、テーマやスタイルの変転を重ねながら、旺盛に制作活動を続けてきた横尾さんが、80歳代半ばにしてたどり着いた境地を象徴する作品として、本作を新たに収蔵できればと考えました。今回、購入候補作品としましては、この1点でございます。

続きまして、同じく横尾忠則作品の寄贈でございます。

2番から21番までの20点について、先ほどの2021年の絵画、《霊妙な得》購入に合わせまして、作家御本人から御寄贈のお申出をいただいております。うち2番から11番までが、1991年から2001年までに手がけられた油彩、あるいはアクリル絵の具による絵画作品です。これらは前回2002年に森羅万象展を開催した後、新規収蔵を加えることができなかつたため、作家の御厚意により2002年度に御寄託を受けておりまして、以後、コレクション展等で活用してきたものでございます。

12から21までは、1960年代後半のシルクスクリーンによるポスターです。これらも御寄託を受けて展示活用をしてきたもの一式の御寄贈となります。

続きまして、22、23は、野見山暁治さんの絵画作品です。野見山暁治さんは1920年生まれ、100歳を超える御高齢ながら、現在も制作を続けておられ、非常に長い画歴をお持ちですが、当館ではこれまでまとまった展示の機会などの御縁がなかった作家さんで、今回初めて収蔵の機会となりまして、作品としましてはヨーロッパから帰国したばかりの1965年に発表された後、長らく作家のお手元にあった1点と、2019年に地下鉄銀座線の駅に設置されたスタンドグラスのために描かれた原画のうちの1点という、新旧の2点の寄贈をお申し出いただいております。

なお、22については1965年の作ではございますが、御寄贈に先立ち、今回先方で既に修復をしていただきましたので、非常に鮮やかな色合いがよみがえっておりますのを御確認いただけるかと思えます。

24から29までは、個人コレクターの方からのまとまった御寄贈です。若手作家の支援の意味も込めて、ほぼ初出時に購入されたもので、一般的に作家としての評価が定まり切らない20代、30代初めの頃に制作されたものといえます。これらは優れた作品であっても、公立美術館ではなかなかリアルタイムに購入しづらく、後から購入しようと思ってもよいものほど入手が困難な希少な作例です。

内訳としましては、24、2006年度に当館に寄託をいただきまして、コレクション展でも活用してきました加藤美佳の代表作《カナリヤ》でございます。

続いて、29までが佐藤翠、須藤由希子、川原直人、長井朋子、名知聡子による絵画作品、それぞれ1点ずつです。これらは当館ではまだ収蔵例の少ない2000年代以降の絵画動向を考える上での参照点となる作品と思っております。

30は、「MOTアニュアル2014」に参加して、その後も活躍している作家、福田尚代さ

んより、1992年の大学院修了展に出品された1点の御寄贈のお申出をいただきました。回文作家としても知られておりまして、言葉や文字を創作の核として用いてきた作家のその後の作品を理解する上でも重要な初期作品として、既に当館で収蔵したコンセプチュアルな作品に加えて、展示活用できればと思っております。

概略は以上です。

詳細は引き続き、作品を実見いただきながら、御説明させていただければと思います。

渡辺文化施設担当統括課長代理：ここまでで何か御質問はございますでしょうか。

特にございませんでしたら、これから作品の検分をしていただきたいと思います。

御案内いたしますので、よろしく願いいたします。

(委員離席)

(作品検分)

(委員着席)

渡辺文化施設担当統括課長代理：これまでで何か御意見、御質問等はございますでしょうか。

特にないということであれば、評価方法の説明をしたいと思います。

お手元にある評価表に金額を記載していただきまして、署名をしていただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの平均値を評価額といたします。金額は税込みのものを御記載ください。評価方法について、何か御質問はございますでしょうか。

それでは、評価表の御記入をお願いいたします。御記入が終了した方は、挙手いただければ係員が取りに伺います。係員による確認後、お声がけいたしますので、御退席いただいて構いません。確認完了をもって、委員会終了といたします。

冒頭にて御説明させていただきましたけれども、本日の資料収集部会の議事録について改めて申し上げます。当部会の議事録は、資料収集決定後、公開を予定しております。事前に内容の確認のため、御連絡をさせていただきます。

また、お配りした資料一式は回収させていただきますので、机の上に置いたままにしていいただければと思います。

今後とも東京都及び東京都現代美術館への御指導のほど、よろしく願いいたします。

(委員評価表記入)

(事務局、評価表確認)

午後3時21分閉会

以上